

設問番号	(1)
解答又は 解答例	解答例 1988～2008 年の世界所得分布では、最上位 1%と新興国の中間層が最も大きな所得増加を経験した。上位 1%は実質所得が 60%以上増加し、中央値付近では 70～80%の伸びが見られた。ここには中国約 2 億人、インド約 9,000 万人、さらにインドネシア・ブラジル・エジプトから各 3,000 万人が含まれ、グローバル化の主要な勝者となった。 一方、下位 3 分の 1 の層も 40～70%の所得増加を示し、世界銀行が「絶対的貧困層」と定義する人々の割合は 20 年間で 44%から 23%へと大幅に減少した。 対照的に、世界所得分布の 75～90 パーセンタイルに位置する層はほとんど所得が伸びず、グローバル化の「敗者」となった。この層には旧共産圏諸国やラテンアメリカの人々、そして先進国で所得が停滞した人々が含まれ、世界的なアッパー・ミドルクラスの停滞が特徴的である。
出題の意図	・ 英文を正確に読み取る能力を確認する。 ・ エレファントカーブの定義を正確に理解しているかを確認する。 ・ グラフの内容を正確に読み取る能力を確認する。

設問番号	(2)
解答又は 解答例	以下の観点を踏まえた解答を期待する。 ・ 国際貿易の観点：貿易理論を正しく使えているか ・ 国際労働力移動の観点：財と労働の非対称性・現実の労働移動を説明できているか ・ 統合・総括：国際貿易および国際労働力移動の 2 観点を、因果関係を踏まえて統合し、エレファントカーブ全体の形状を説明しているか ・ 論述の質：用語の正確さ・因果の一貫性・資料との対応・構成
出題の意図	・ 国際貿易と要素価格に関する基礎的理論（ヘクシャー＝オリーエン定理、ストルパー＝サミュエルソン定理、要素価格均等化定理）を理解しているかを確認する。 ・ 貿易及び直接投資の自由化と国際労働力移動の問題を関連付けることができるかを確認する。 ・ 上記を経済現象（エレファントカーブに示される経済格差）にあてはめて考えることができる。

設問番号	(3)
解答又は 解答例	以下の観点を踏まえた解答を期待する。 ・ エレファントカーブ全体の形状から、国家内格差よりも国家間格差が大きいことを説明できている。 ・ 国家間格差をもたらす要因について、世界経済に関する基礎的知識や基礎的理論に基づいて多面的に説明している。

	・ 要因を踏まえて具体的な政策について説明している。
出題の意図	・ グラフを読んで国家内の所得格差（階級要因）よりも国家間の平均所得の格差（地理的要因）が大きいことを読み取れるかを確認する。 ・ 国家間の平均所得の格差（地理的要因）が大きい理由について多面的に考察できるかを確認する。